

◆トークショーに関するご感想◆

<患者の立場からの意見>

- ・“風のようにケアをできる”は、実に本質をついた言葉！！これはまるで地上の天使がしゃべっているように感じた。→大感激！！こんな貴重な職業があるのか！！
私は昔石賢臓を摘出、修羅場をくぐり人生観が変わってその後は楽になった。
- ・初めてがん看護師を知りました。患者にとって大事な存在ですね。
- ・緩和ケアの専門である梅田さんとCNJの川上さんとのトークが、がんだけでなく生きる、どう生きていくという原点に立ち考えていく道しるべを示して下さいました。とても素晴らしいトークショーでした。映画の後だから考えられるお話がありました。
- ・風のような「看護」安心しました。自分を大事にしたい？家族のことが心配になる。
- ・ご縁を授かった様に感じています。
淡々としたでも心にしみ入るような映画でした。患者さん、彼らを支えるすべての人々がみな意味をもったかけがえのない人生を生きていることを再確認できたことに感謝しています。
- ・治療期からわがままに生きた患者は上手にしねる＝ステキです。映画の中身が理論的に整理されました。
- ・専門看護師の数を増やすのはもちろん良いことですが患者を取り巻く環境の整備が必要だと思えます。チーム医療としての取り組みを是非考えてほしいです。最後の日を迎えるまで人として生きていくことの大切さを痛感しています。
- ・がん専門看護師の存在は知っていましたがお話の一言一言が胸に響きました。
- ・「がんとむきあう命」ですががん患者になった時から「死に向き合って」生きなければならないつらさがあります。がんになったことで家族をがん患者の家族にしてしまったつらさがあります。再発や転移をだだいつかくることとまっていなくてはならないのか、何か再発を遠ざけることができないのか日々考えています。
- ・がん専門看護師としての体験から「わがまま」が時に大切なこと、死を見つめることが生きるために大切なことを感じることができました。
- ・「風のような看護」という言葉が印象に残りました。日本の風土のなかで現場で実際に起きていることを聞いてよかったです。
- ・肉体の痛みより心の痛みへのケアについてのお話が面白かったです。患者としてやはり常に死を意識せざるを得ない中心の中のモヤモヤしたものをぶつける相手がほしいと思います。又、緩和ケアの意味を再認識しました。
- ・とても温かな歯切れの良いお話が心地よかったです。
- ・梅田さんのお話はとても現実的に即したものでわかりやすくそれがかえって前向きになれるように感じました。病気のことを隠したりネガティブなことばかりになっても、自分に与えられた時間が変わるわけではないので日々ふつうに生きることができると理想だと思います。
- ・専門看護師さんの存在を心強く思うと共にどの病院にも配置されるようになるのはまだまだ先のことになるのでしょうね。緩和ケアはがん医療の中だけではないこと、患者は遠慮せずに意思表示したほうが良い。
- ・経験と知識の豊富さと穏やかな語りがとてもよかったです。
- ・ペインコントロールたるさ世話を他人にゆだねなければならない患者の思いを受け看護師が風のようにケアする、素晴らしい！人権運動から緩和ケアの概念ができていることを初めて知りました。
- ・とてもよく解りやすい話で患者さんに向けてこのような機会をたくさんつぎっていただけたらと思います。一般の方にも。

- ・「準備すべきは毎日！！」そのとおりですね。梅田さんの自分の経験を踏まえたお話はとてもためになりました。
- ・看護師の立場からがん患者を如何に支えていけるかを考えて下さり今後も活躍していただきたいと思います。

<患者の家族・友人の意見>

- ・緩和ケアに関して体ではなく気持ちのケアであるとのこと私もその通りだと思いました。とても参考になりました。
- ・この映画の余韻をたのしみたかったのでしばらくは熱心に聴けませんでした。企画の組み合わせとしてはどうでしょうか？（夜遅いせいでそうかんじてしまったのかもしれませんが）話はとても上手だったと思います。

<医療関係者からの意見>

- ・がん看護 CNS の立場からわかりやすく緩和ケアについてお話しして下さったので、緩和ケアについてよくわかりました。がん患者さんの苦痛やどのようにがんと向き合っていけばいいのか、緩和ケアの考え方、がん患者の家族のことについてもとても勉強になりました。
将来がん看護 CNS を考えているのでとても勉強できました。
- ・痛みよりもっとつらいものの大切さがよくわかりました。
- ・私の母は日本看護協会では訪問看護をしています。お二方の話を聞かせていただいて母親の看護観とよく似た点があつてもあり今まで以上に母親の言葉が身にしみました。
- ・多くの患者さんとのかかわりからわかることを知ることができたように思います。映画では生きる喜びがよく見えて苦しみの方にあまり目が向きにくい面もありましたがお話を通して広く考えることができたように思います。
- ・ホスピス、末期の治療などに興味があつたので新たにたくさんの知識考えがえれてとてもよかった。
これからの勉強のことだけでなく自分の生き方についても向き合つて考えていきたいなと改めて思うことができました。
- ・現場にいる看護師の声を聞いてよかったです。
- ・終末期で人生を命を考えるよりもその今の時間から考えていくことが重要であると感じました。
- ・がん看護専門誌の視点から映画の中の PT、家族、がんの経過、家族の葛藤をきくことができ、映画の「山田さんの姿」からがんの PT さんに必要なケアについて考えることができました。
- ・20年のキャリアをおもちのがん看護専門 NS の言葉には教科書や授業では学ぶことのできない現場から得た学びが多く含まれていて勉強になりました。
- ・高齢社会により、ますますがん患者が増加していくと思いますが、ナースの皆さんがバーンアウトしないような政策を望んでいます。
- ・専門看護師等による、スピリチュアルケアを受けられないまま亡くなる人は日本は多いと思いますが、医療者以外の人達への患者さんとの接し方についての啓発も必要かと思いました。
- ・インフォメーションのときから楽しみにしていた梅田さんのお話を聞くことができ、また、そのときの会場の反応を感じる事ができ、多くのことを学びました。
- ・CNS の活動（社会活動）の様子がわかり、大変参考になりました。

<医療関係企業からの意見>

- ・とても分かりやすい、親しみを持って聞けました。
- ・「その人らしく」のテーマに沿った内容が後半に出てきた。ここをもっとふくらませて聞きたか

ったです。でも、マインドのある専門看護師さんのお話は、とても温かくて良かったです。

- ・ がん看護専門看護師の活動を具体的に知りたくなりました。現場で活躍されている方だけに、話に説得力がありました。

<メディアからの意見>

- ・ 患者さんの生活を、病院外のことも含めて考えていくことの大切さに着目し、活動されている点に、私も大変共感いたしました。人として向き合う、ということですね。
- ・ 貴重なお話を、ありがとうございました。
- ・ 緩和ケアに精通している梅田さんの話は参考になりました。本当に初期からの緩和ケアが提供されることを願います。
- ・ スピリチュアル・ペインについて取り上げて欲しい

<その他からの意見>

- ・ ガンであろうと、どのような病気であろうと、人はなくなる。ガンを特別視するのではなく、人が死ぬまでのプロセスをともに過ごすことが大事なのだと感じた。
- ・ 短い時間でしたが、びっくりするほどコンパクトに大切なことを、わかりやすく語っていただきました。私は全く通りすがりのものでしたが、人工肛門を受け入れることに苦闘している父を6年間見てきて、病あるいは弱っていく自分、何か変わっていく自分と、続いていく人生について、日頃もやもやしていたものが、ナースの角度から形を与えられたような気がして、少し勇気が出ました。身近で、患者さんに会った時も自分が無関係ではないと思いつける時も、今日のことを忘れないでしょう。
- ・ 梅田さんの話にも出ていて「死」とどう向き合うか、だと思ふ。「人権の問題」とのキーワード、参考になりました。有意義な時でした。
- ・ がんについて、全く知識がなかったので、興味深かった。
- ・ 映画を消化するための助けとして、とても良かった。私が、自身として、家族として、仕事を通して、どういったことをしていけば良いのか、改めて考える機会となった。
- ・ 上手に死ぬ、という話が印象的でした。
- ・ いまだに、ガンという病気に対する偏見があることに驚いた
- ・ 緩和ケアは概念（マインド）であり、幅広い形で、社会に啓発されていく必要があると思った。今回のイベントのサブタイトルである「その人らしくあることを支えるために」は大変良いコンセプトであると思います。
- ・ 印象に残ったことは、「風のようなケア」という言葉です。
- ・ がん患者の心情が良く分かった。支える立場として、どう向き合っただけがいいか、考えさせられた。

◆企画へのご意見◆

<患者の立場からの意見>

- ・ CNJの普段のプログラムとも一味異なり学ぶことが多かった。ぜひ看護学生の教育に活かしてください。
- ・ 看護師さんの大変な使命に感激です。若き多くの人々が学び実践の中で力を養って下さい。
- ・ 映画を看護学生だけでなく、中学生、高校生向けに生きる人と人としてのつながりを教える良い映画として上映していただければと思っています。
- ・ 作り話でなく本当のこと現実を見て聞けて本当によかったです。

- ・医療関係者に心の問題を考えていただけるような企画を目指してほしい。患者のことはその人でないとわからないので他人として関わり方を学ぶきっかけを作ってほしい。
- ・慰めるスタンスではなく、限りなく患者に情報提供をして下さりアクションを起こす手助けをしてほしいと思います。
- ・「がん」でもその人らしくあること日常生活が大切ということを学んでほしい。
- ・映画は若い人たちにも十分説得力を持つものだと思います。チェロセラピーの場面など、きっと若い人たちの心に響くと思います。
- ・異なる立場の人たちとのパネルディスカッションも面白いかもしれませんね
- ・参加型のトークショーにまでなればいい。
- ・トークショーは短時間の中に情報が詰まっていて初心者には参考になると思います。映画は「がん」そのものの治療に関する描写があまりないので直接的に勉強になるというものではないと思います。
- ・このようなイベントをこれからもご期待いたします。ありがとうございました。参加できてほんとに良かったです。
- ・細かいことですが受付の型がとても無愛想でした。「こんにちは！」ぐらいはいったほうがいいのでは？と思いました。
- ・心のケアを加味した看護を心がけていていただきたいと思います。

<医療関係者からの意見>

- ・看護系の学校や小中高の学校に配ったり上映会をすると広がると思う。
- ・一般の小中学生にみせてあげたい。
- ・様々な立場の人がいることで映画とトークイベントに緊張感があってよかったです。
- ・多くの学生にみて感じてもらいたいと思います。意見の交換ができるともっとお互いに理解が深まると思います。ありがとうございました。
- ・こういったプログラムをやっていただけたら嬉しいです。
- ・月に一回ぐらい行ってほしい。
- ・とても勉強になった。トークショーで質疑ができれば。
- ・看護学生が教材として使うには専門NSや教員の説明が絶対必要不可欠。トークショーによって緩和ケアによってその人の時間が長くなりNSの役割もそれをサポートするようにかわってきているなど作品の背景がわかりました。
- ・当事者の方(患者さんやそのご家族)の気持ちやその方々をどうサポートしていくかについてみんな考えるイベントであれば、映画を見たあとのトークのタイムはがん専門看護NSと当事者などのセッションがよいのでは？
- ・映画がスタートするときのイントロダクションが挿入されているほうが良かった。
- ・私も、ここから学び取ったことを今後活かしていけると思います。そして、もう一度、見つめてみたいと思っています。
- ・トークショーの最後に、質問・意見交換などの時間があればいいな、と思います。
- ・日常診療の場面では、病に悩む患者さんの姿しか見ていないから、彼らが各々の縁を持ちつつ、今も生きていることを思い出して接していこうと思う。
- ・医学生にも見てほしいとおもう。
- ・学生さん達に、「人を見る」という意味を改めて感じてもらえる。また、臨床にいるスタッフにも考えてもらえると思います。

- ・素晴らしい企画です。もっと多くの方に参加してほしいです。

<医療関係企業からの意見>

- ・「早期からの緩和ケア」という話ですが、実際はやはり終末期という印象が残りました。「自分だけはがんにならない」という方々に早く見つけて、痛みをとって早く治す、という前向きなプレゼン案がないものか…と改めて思いました。
- ・ターゲットを看護学生ではなく、経験を経た、それこそ専門ナース・認定ナースに普及するほうが良いと思います。

<メディアからの意見>

- ・とても良いプログラムだと思います。どんどん進めていただきたい。

<その他からの意見>

- ・非常に良いプログラムです。医療技術も大事ですが、患者に「人」として接する医療者育てていただきたい。
- ・本日の主旨とずれるかもしれませんが、音、音楽、ことばを交わすこと、見つめたり、触れ合ったりすることが、どれほど人の心身をあたため、ほぐしてくれるのかと思いました。このことと医療の関係を取り上げた広め方も、良いと感じます。
- ・自分の人生を考えてみるプログラム。「人間の死」は、終わりではないというメッセージも必要かな。人は寄りかかって生きているということを改めて知ること。
- ・質問タイムを設けても良かった。
- ・緩和ケアから、死別後のグリー老けたを視野に入れた講演会、研修会などを期待したい。
- ・医療関係者、行政、民間団体の相互の連携が大切である。情報の共有化、パートナーシップが求められる。
- ・ガンに限らず、このようなプログラムは、沢山の年齢の方が参加できるようなチャンスを広げて行ってほしいです。